

水稲における斑点米カメムシ類防除の徹底を！

今年度は暖冬の影響により斑点米カメムシ類の越冬数が多く、また四国地方の向こう1か月の気象予報（7月4日高松地方気象台発表）によると、平均気温は平年と比べて高いと予想されており、今後、**斑点米カメムシ類が多発するおそれ**があります。

【斑点米カメムシ類について】

イネの重要害虫の一種であり、穂を吸汁加害することにより斑点米を形成させ、米の品質低下を引き起こします。斑点米による被害額は全国で年間約20～30億円にのぼるとも言われています。



【防除対策】

1. 畦畔・水田内の除草



水田周辺にカメムシを寄せ付けないように畦畔除草は、**出穂7～10日前**に実施しましょう。

2. 薬剤防除

カメムシの侵入は水稲の出穂直後から増加します。栽培しおりの防除時期を守って防除を実施しましょう。

【イネクロカメムシについて】

一部地域でイネクロカメムシ被害が多く見られています。

1. 被害について

葉や茎を加害することにより葉先の黄変や葉の黄色斑点、また多発時には株の矮化や茎数の減少を引き起こします。



2. 防除対策

本虫は主に株元で生息しているので、登録薬剤が株元まで十分にかかるように散布しましょう。

特徴的な被害